

平成19年度 校内研修のまとめ

学校名 備前市立日生南小学校

校長名 三 村 伴子

1 研究テーマ

生き生きと自分の思いや考えを表現する力の育成

～相手により分かりやすく書くことをめざして～

2 研究テーマ設定の理由

本校は一昨年度から、国語科を中心に「自分の思い」を「書くこと」を通して豊かに表現する児童の育成をめざして研究に取り組んできた。

国語科だけでなく、どの教科でも書く活動をできるだけ取り入れるよう努めてきた。日頃から学校生活の中で、招待状やお礼状、誕生日メッセージや読書感想文など、自分の気持ちを表現する活動を多く取り入れてきた。また、児童の作品を教室や廊下、図書室に掲示することで、お互いの作品を見合い、それぞれのよさを確認することができた。

その結果、文を書くことが苦手だった児童が、「かなり好き」と思えるようになったり、目的意識と相手意識をもった上で、書く活動に取り組めるようになったりするなど、書くという学習態度に成長を感じた。しかし、その一方で書く時間の確保、具体的な支援については、さらに工夫の余地があると考えた。

そこで本年度は、これまでの成果を土台にして、自分の思いや考えを相手により分かりやすく伝える力を育てるために、「書くこと」について継続して研究したいと考えた。各クラスの授業の中で「書くこと」を意識した授業展開を工夫し、全校をあげて、児童の「分かりやすく表現する力」の育成に努めたいと考え、本研究テーマを設定した。

3 研究内容及び成果

(1) 研究方法

- ・ 毎週月曜日を定例の研修日として、全職員で共通理解を図り、研究を深めた。
- ・ 「相手により分かりやすく書く」力の育成についての理論研究を、他校の実践や関連文献等で進めた。
- ・ 研究授業を計画、実施し、指導力の向上を図った。
- ・ 研究会への積極的に参加することを通して研究を深め、実践に生かした。

(2) 研究内容

研究の計画

1学期に目指す児童像の検討や理論研究を行い、2学期を中心にして授業研究を行った。授業研究は、次の観点を押さえて進めた。

自分の思いや考えを進んで表現するための指導法の工夫。

分かりやすく書いて表現するための指導法の工夫。

公開授業研究

第1学年 国語科 単元名 てがみをかこう「三小の友達に手紙を書こう」

1年生児童が他校の児童と交流する経験を通し、自分の気持ちを手紙に書いて送る活動をした。児童のうれしい気持ちや感謝の気持ちを相手に伝えるように手紙に書くことをねらいとした。授業では児童の意見や思いを称揚しつつ、相手が読みやすいように丁寧に書くことや濃い字を書くことなどを指導した。意欲的に文章を書く姿が見られた。

第4学年 国語科 単元名 まとまりに分けて書こう「せつめい書を作ろう」

相手に自分の経験をしたことを文章で明確に伝える活動を計画した。事柄ごとのまとまりを意識し、伝えたいことの内容が相手によくわかるように、段落を考えて書くことができるようにすることをねらいとした。授業では、説明書の下書きを友達と読み合い交流する場を設けることで、よい点や改善点を見つけ、自らよりわかりやすい説明書にすることを支援した。児童は、意欲的に表現方法を工夫しようと努力することができた。

(3) 研究の成果

自分の思いや考えを進んで表現する姿

公開授業の中で、1年生も4年生も自分の思いを進んで表現しようとする意欲的な姿が見られた。1年生の児童は、他校との交流を通して、多くの友達と楽しい時間を過ごすことができた。この喜びを素直に表現しようと、複数の手紙を書くことに挑戦した。4年生の児童は、説明書作りのテーマを自分の得意なことや自慢できることに設定した。それぞれテーマを「和太鼓」や「リコーダー」にすることで、書くことへの意欲を最後まで持続し、書きたい内容を整理しながら学習に取り組むことができた。

学校生活での日頃の書く活動でも、進んで思いを表現する姿が見られるようになった。ゲストティーチャーへのお礼の手紙や集会などの発表原稿、行事の作文や日記の学習などを書く場面では、意欲的に書こうとする姿が多くなった。

分かりやすく書いて表現する姿

各学年、書く活動を経験していくにつれ、文章量とともに気持ちを表現した文章、詳しい内容を書いた文章、文法に気をつけた文章、既習の漢字を使った文章などを書くことが増えてきた。特に、気持ちを表現した文章や既習の漢字を使った文章は、年度当初よりも多用できる児童が増えてきたと実感している。

しかし、分かりやすく書くことに関して、まだまだ改善の余地がおおいにあるのが現状。今後も今年度の研究を生かしていきたい。

(4) 今後の課題

- ・今年度の「書く」活動の研究では、国語科中心の学習指導の研究だった。「読む」活動、「話す・聞く」活動との関連も追究していく必要があると感じる。また、他教科のノート指導などとも「書く」活動を関連づけて研究していくこともできる。
- ・「分かりやすく書く」という表現だけでは、抽象的だった。段落や会話文など文法的に分かりやすいのか、描写が詳しく分かりやすいのか、気持ちがよく表現していて分かりやすいのかなど評価の観点をもう少し焦点化させることもできると感じた。
- ・「書く」活動を研究する上で、漢字の習得は無視できない。本校児童の中には、既習の漢字を習得するのが苦手な児童が少なくない。効果的な指導を工夫し、継続していきたい。
- ・「書く」活動の指導は、多くの時間を要する。時間を確保しながら今後も指導していきたい。

